



「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行なっている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報を発信していきます。

葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の葉っぱたち vol.65 絵と文 群馬直美

包帯ぐるぐる巻きの春が来た! 《タラノキの冬芽》

2月のビオトープ園のタラノキは、
「包帯ぐるぐる巻きのミイラ男のよう」。
と、毎年思ってた早7年経った今年の正月明け、
家人が右手首を骨折し「包帯ぐるぐる巻き」のギブス生活となった。
字も書けなければ、食事をするのもままならない。
ましてや着替えもできないし、歯磨き粉のチューブの蓋も開けられない。
服の脱ぎ着、ソデをまくる、目薬をさす、布団を掛ける……
日常生活の細々したことに助けが必要となり、私の生活も一変した。
左手ににぎったフォークで食べ物を突き刺し、口に運ぼうとして何度も失敗する様子を、
私は横目で見ながら共に食し、無理そうだな、と察したら手を貸す〈合の手〉作戦で挑むことにした。
3日もすると家人は、
生まれたときからずっと左手を使っていたんじゃないかくらい器用にフォークで食べられるようになった。
凄い! 進化していく左手が喜びのタネになっていった。
ギブスが外れ5週間振りに出てきた右手は、凍りついたミイラ男の手。
低下した筋力で、だらりと下がったまま動かない。
ひと月分の古い皮膚の堆積で、洗っても洗っても浮き出てくる垢。
リハビリの先生は、そんな垢まみれの右手をやさしくにぎり、タオルを掛けた自分の膝の上に置き、
固くなった皮膚や筋肉や関節をもみほぐす。先生の膝に、雪のように垢が降り積もる。
春たちて ひと雨ごとのあたたかさ
家人の右手は、ひとりハビリごとに動きはじめ、紙コップに右手を添えて飲みほぐし、
右手スプーンでご飯も食べられるようになった。
あたりまえのことが日々出来ていく家人の右手に、芽生えの春を見ているよう。
そんな〈合の手〉生活をしながらかき上げたタラノキの冬芽の絵。
いつものように「これは手強い!」の制作の日々だったけど、
15日もしたら自然に完成に至っていた。
もうすぐ、タラノキの包帯も解け、おいしそうなタラノメが顔を出す。
ビオトープ園にはトゲありとトゲなしの2本のタラノキがある。
私が描いたのはトゲなしの方。

表紙の絵 「タラノキの冬芽×4.35」

冠をかぶった王子さま!

・ヤマトビオトープ園にて2023.2.6採集
・紙(アルシュ 極細目)/テンペラ・油絵の具
・size:310mm×230mm
・2023.2.22完成 © Naomi Gumma

建設プロダクト  ヤマト

株式会社ヤマト 総務部広報室

2023年4月発行

〒371-0844 群馬県前橋市古市町118 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、「葉っぱ」をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の實の美術館』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>